

2017年度 学校評価(自己評価)

2017年度は、学校目標として次を設定した。

- 附属高校にふさわしい知的探究心を昂進する高大接続のあり方を具体化するとともに、キャリア・プラン、ひいてはライフ・デザインと一貫性を持って主体的な人生設計の中で学部選択が出来る施策を進める。
- 社会と学校を結ぶ講座やワークショップの組織化、恒久化をはかり、社会と学校の連携を促進する。
- 1年間の留学期間を含む3年卒業制度の円滑な実施と大学若年での留学を視野に入れた指導体制を追及する。

また、これらの目標を遂行するため、以下の項目を上げ、その他の教育活動も含め、さらなる向上を図った。

- 知的探究心に基づきライフ・デザインを視野に収めた高・大接続と学部進学
- 社会から問題を見出す社会・社会人との連携教育
- 国際交流と留学の充実
- 日常教育活動全般の充実と改善
- 大地震への備えと生徒・教職員の安全確保

以下、それぞれの項目についてその遂行状況を概観する。

- 知的探究心に基づきライフ・デザインを視野に収めた高・大接続と学部進学について
大学附属高校として、各学院の学問・研究内容に知的関心をもって進学できるよう、高・大接続の一層の充実をはかるため、上級学年における学部設置科目の先取りや研究内容の紹介に加え、高校入学当初から研究・学問の内容に関心をもち将来のキャリア・プランに関する意識を向上させるとともに、能動的な進路選択の意識を高めることを目的に2017年度は6月8日(木)に高校1年全員を対象に、早稲田大学理工学術院・大石進一教授による「ライフ・デザイン講演会」を実施した。
- 社会から問題を見出す社会・社会人との連携教育について
グローバル社会、日本社会、地域社会など、社会の各レベルから問題を見出し、探究・研究活動につなげていくために、社会及び社会人との連携教育活動を一層強め、2017年度は多文化共生製作を着実に進めている滋賀県甲賀市や地域の町おこしに努めている高知県宿毛市での国内フィールドワーク、対馬と釜山をまたいだ越境フィールドワーク、さらに海外でのオーストラリアフィールドワークを実施し、社会の諸問題を社会そのものから学び取る学習活動の展開のさらなる強化をはかった。

- 国際交流と留学の充実について

新たに実働した「1年間の留学期間を含む3年卒業制度」を円滑に実施し、初年度となる2017年度はこの制度での留学の2名を含め、年間留学を行った生徒が合計で11名、夏休みや春休みなどを利用した短期の留学・海外研修・海外派遣は183名であった。また、海外からの受入留学生・海外からの来校高校生は合計218名となり、台湾・フランス・中国・ドイツ・韓国・ロシア・オーストラリアで合わせて10の協定校・協定機関と連携し国際交流と留学のより一層の充実をはかった。

- 日常教育活動全般の充実と改善について

中学部・高校の双方における教科活動、教科外活動の両面で生徒が自主的に学ぼうとする意欲を高める指導を工夫し、SSH、SGH、情報教育、総合的な学習の時間などの取り組みの成果を共有し、11月に開催している学芸発表会・学習発表会などの学校行事とも連携させつつ、理系・文系の独自性を発揮するとともにその枠を超えた教科融合的な取り組みを行った。

- 大地震への備えと生徒・教職員の安全確保について

大地震を含め最近多発している大きな災害に対処するため、備蓄品の準備・管理・確保を進めた。また、防犯・防災訓練の実施や帰宅困難時の経路確認を通して、災害時の際の対応の確認を行った。

以上

2017年度 保護者・生徒を対象とした学校評価アンケートについて

今後の高等学院および高等学院中学部の教育をより良くするため、保護者・生徒を対象にしたアンケートを実施した（2012年度に引き続き6回目）。以下（1）質問項目、（2）アンケート結果、（3）アンケート結果の分析と改善点等を述べていく。

（1）質問項目

学校全体の取り組みについて

- 1．高等学院は生徒の自主性・自立性の育成に努めている
- 2．高等学院は中学・高校と大学との連携に努めている
- 3．高等学院は国際交流の推進に努めている

学習指導について

- 1．指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている
- 2．生徒の進度やレベルに合った授業が行われている
- 3．生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている
- 4．適切な評価が行われている

生徒指導について

- 1．組主任は生徒の欠席・欠課・遅刻の状況を把握し、生活面の指導を適切に行っている
- 2．組主任は生徒の成績を把握し、学習面のサポートを適切に行っている
- 3．組主任は進級・進学などのルールについて、保護者・生徒へ適切に説明を行っている
- 4．組主任は学部・学科などの情報を保護者・生徒に提供し、適切に進路指導を行っている
（生徒は高校のみ）

クラブ活動について

- 1．生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている
- 2．部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている
- 3．部長（顧問）は部活動の内容について、保護者へ適切に情報を提供している
（生徒は高校のみ）

授業や勉強へのあなたの取り組みについて【生徒のみ】

- 1．私は授業に積極的に取り組んでいる
- 2．私は授業時間以外にも積極的に勉強をしている
- 3．私は授業時間以外にも積極的に取り組んでいるものがある

(2) アンケート結果

別紙の表およびグラフを参照していただきたい。

(3) アンケート結果の分析と改善点等

学校全体の取り組みについて

質問項目 1 . 「生徒の自主性・自立性の育成に努めている」においては保護者全体で 56.6% (昨年度 56.8% ・一昨年度 57.3%)、生徒全体で 38.0% (昨年度 34.7% ・一昨年度 31.9%) が「そう思う」と回答している。また生徒全体では、「ややそう思う」の評価を加味すると、74.5% (昨年度 70.6% ・一昨年度 71.2%) が肯定的な回答をしたことになる。保護者・生徒ともに、評価していると回答した割合は昨年度・一昨年度とほぼ同じで、これは「生徒の自主性・自立性の育成」という本校の目指す教育理念が保護者・生徒ともに深く浸透していることを示しているといえるだろう。

質問項目 2 . 「中学・高校と大学との連携の推進に努めている」生徒全体では「ややそう思う」が 33.4% と最も多く、「そう思う」(26.9%) と合わせると 60.3% が肯定的な回答となり、昨年・一昨年と比較して評価が上がった。また、保護者全体でも「ややそう思う」が 42.2% と最も高く、肯定的なの回答が上がっており、中高大連携の実践についての成果がアンケート結果に現れている。

質問項目 3 . 「国際交流の推進に努めている」では保護者全体では「ややそう思う」が 45.1% と最も多かったのに対して、生徒全体で「そう思う」が 39.1% と最も高い結果となった。2014 年度からスーパーグローバルスクール (SGH) に採択されて以降、様々な取り組みの成果が生徒に浸透してきていることを窺うことができる。

学習指導について

質問項目 1 . 「指導方法を工夫し、質の高い授業が行われている」に対して、昨年と同様、中学生・高校生とも「ややそう思う」が最も高く (中学 45.2%、高校 44.2%) 「そう思う」と合わせると、中学 84.0% (昨年度 75.8% ・一昨年度 73.8%)、高校 69.7% (昨年度 51.2% ・一昨年度 49.8%) となっている。中学・高校ともに昨年度・一昨年度よりも評価がさらに上がっており、授業の質の向上の努力の成果が現れている。今後とも授業の質の向上に努めていく必要がある。

質問項目 2 . 「生徒の進度やレベルに合った授業が行われている」および質問項目 3 . 「生徒一人ひとりの学力を伸ばす授業が行われている」の評価についても昨年よりも肯定的な回答増えており、質問項目 2 で「ややそう思う」が最も多い結果となった (生徒全体 30.9%、保護者全体 36.8%) ほか、質問項目 3 でも中学部で「ややそう思う」が最も多かった。(中学部・生徒全体 36.6%、保護者全体 37.6%)。質問項目 1 の結果と合わせて、各教員による授業の質の向上の努力の成果を生徒が直接感じることができていることがアンケート結果に現れている。

質問項目 4 . 「適切な評価が行われている」では、生徒・保護者とも「ややそう思う」が最も高くなっている (生徒全体 35.7%、保護者全体 48.1%)。普段の授業における評

価が進級・進学の際に非常に重要となる本校では、「そう思う」という評価が最も高くなるよう、今後も改善に努めなければならない。

生徒指導について

1～4全ての項目において「そう思う」あるいは「ややそう思う」が各学年とも最も多い回答になっており、これまでと同様に、保護者・生徒ともに高評価が得られている。組主任と生徒・保護者との信頼関係が良好の状態が保たれており、生徒に対する生活面・学習面でのサポート態勢が組み立てられていることが、この結果からわかるだろう。

本校では、学部説明会やモデル講義、本校OBである学部生・大学院生と本校生徒との懇談会等を通して、学部・学科の情報を生徒・保護者へ伝えていることで、卒業生全員が早稲田大学へ進学することが前提となっている生徒たちへ早い段階から意識づけを行い、自身の進路について考えさせる教育を行っている。今後もこのような機会を設定・拡充し、生徒が適切な進路決定へ結びつけるよう努めていきたい。

クラブ活動について

質問項目1.「生徒の安全面に配慮した適切な指導が行われている」について、保護者全体では中学部・高校とも「ややそう思う」が最も多く全体で38.8%であった。それに対し、生徒全体では「そう思う」が35.2%と最も多くなり、生徒全体で評価が高くなった。

また、質問項目2.「部長（顧問）は部員とコミュニケーションを取り、生徒の把握に努めている」については、保護者全体では「ややそう思う」が最も多く（32.4%）昨年度とほぼ同様の傾向であった。一方で、生徒の方を見ると、高校生全体では「ややそう思う」が最も多く（29.5%）、中学生全体では「そう思う」が最も多かった（43.3%）。生徒・保護者ともに否定的な意見は少ないものの、今後も部長（顧問）と生徒との間のコミュニケーションの重要性をしっかりと認識する必要がある。

高校生への質問項目3.「部長（顧問）は部活動の内容について、生徒へ適切に情報を提供している」は、昨年同様に、高校1・2年生では「ややそう思う」が最も高くなった一方で、高校3年生で「そう思う」が最も高い評価となっている。一方、保護者の方では全体で「ややそう思う」が最も高い結果となっており（29.8%）、「そう思う」（24.2%）と合わせると54.0%と昨年よりもさらに高評価になっている（昨年度50.8%）。今後も部長（顧問）と生徒・保護者との連携を密にする努力を続けていくことが重要となる。クラブ活動への参加率はかなり高い本校において、高校生活におけるクラブ活動の意義は非常に大きく、安全面の配慮に十分注意しながら、部長と生徒・保護者との良好な関係を保つことで、生徒にとって有意義な活動になるよう努力を続ける必要がある。

以上